

## 新春インタビュー

NPO法人・ヘルスケアネットワーク(OCHIS)

武田 裕理事長(阪大名誉教授)

昨今、多くの企業が「従業員の健康管理」を重要施策と位置付けるようになり、中では、運輸業界でも運輸業界では、ハンドルを握るドライバーの身体不良そのものが交通事故に直結し、社会的にも大きな犠牲と損失を生み出すことから、健康管理への認識は急速に高まりつつあります。



昨年10月、国土交通省から「事業用自動車の運転者の健康管理に係るマニュアル」の再徹底通知が出されました。これは2010年7月の初回通

知に続いて発出されたもので、その背景にはやはり健康起因事故があまりま

知に続いて発出されたもので、その背景にはやはり健康起因事故があまりま

ることが予想されます。このため「健康管理」という対策なくして有効な安全施策は生まれなことを示唆しています。振り返れば、OCHISは「事故防止は健康管理から」をコンセプトに、長年運輸業界の健康

## 新たなサービスがスタート 業界の健康管理を支援

が通じた感がHIS会員サービス」をスタートさせました。定期健康診断の事後措置の仕方、健康管理の進め方、睡眠時無呼吸症候群(SAS)検査のフォローなど、日々苦勞されている管理者の後方支援を行うことが、健康管理意識を現場に浸透させるための重要な手法だと考え

からです。

OCHISは今後も「業界・現場目線へのこだわり」「中小事業者への支援」を自らの立ち位置と捉え、運輸業界の健康管理をサポートしていきたいと思ひます。OCHISの管理者支援という新たな試みが、現場の健康管理意識が一層浸透することに役立ち、業界の更なる発展にお役に立てれば幸いと考へます。

の高まりを目的の当たりにし、私どもの長年の思い

さらに、費用対効果、社内でのコンセンサスの困難さなどがその要因ではないかと思われませんが、中小企業の場合はさらにハードルが高くなっているように思ひます。そこで昨年12月、OCHISではこれらの意識の高まりを実践に変換していくキーパーソンとなる管理者向けに、「OCHIS